

平成30年度 第2回精華町まちづくり基本構想策定懇話会

日 時	平成31年1月30日(水) 9時30分～12時30分
場 所	精華町役場 2階 201 会議室
出席者	宗田委員 (座長) 多々納副座長 (副座長) 山本委員 高鍋委員 井原委員 福味委員 [オブザーバー] 近畿中部防衛局 井上課長補佐 山戸主事
傍聴人	なし
事務局	岩崎 教育部長、浦本 総務部次長、竹島 学校教育課長、石崎 生涯学習課長、 上原 学校教育課係長
事務支援	中日本建設コンサルタント(株) 佐々木、岩脇、柴田
内 容	<p>■現地見学</p> <p>■議題</p> <p>1. アンケートの調査結果について</p> <p>2. まちづくり基本構想の理念及び施設整備の構想について</p> <p>3. その他</p>

■現地見学	○防災食育センター及び防災受援施設の予定地について見学を行った。
■議題	1. アンケートの調査結果について <「参考資料2」により説明>
宗田座長	アンケート結果から、精華町の特徴的なことは見つかったのか。
事務局	特に特徴的ということはあまり見受けられていない。 地域間における防災意識の差などは一部である。木津川の氾濫等により浸水害の可能性のある地域の方がそうでない地域よりも防災意識が高い。しかし、それが災害に対する備えなど、実際の行動に結びついてはいない。
宗田座長	京都府は、災害における実際の避難訓練が全国平均に比べてかなり低いのを問題にしている。精華町は、全国平均に比べると参加率が低いようであるが、京都府の平均と比べると少し高い傾向にある。 アンケートの自由記入欄のところで大変多くの質問、意見をいただいております、実情に近いお話もある。

	<p>アンケート全体の傾向を見ると、他の自治体でやっているアンケートと比べて僅かだが女性比率が高い。一般的に都市部の方が女性比率が高い傾向がある。精華町の場合だと、女性の票が 55%ある。</p> <p>年齢に関して言えば、若い人達の票も多く、20 代の意見も多い。このようなアンケートが取れるのは精華町の特徴だと思う。50 歳以上、60 歳以上が大体を占めるアンケートに見慣れているので、すごいことだと思う。</p>
■議題	<p>2. まちづくり基本構想の理念及び施設整備の構想について</p> <p><「資料1」から「資料4」について説明></p> <p><「参考資料3」について説明></p>
宗田座長	<p>まず、最初にまちづくりの理念について議論に入りたいと思う。</p> <p>精華町の第5次総合計画では、将来人口を4万人と想定しているが、現在は3万7千人ぐらいである。計画の策定段階では、農村地域が学研の開発によって人口増加が続いており、全国では人口減少や高齢化、過疎化が進む中でも精華町は人口が増えている状況にあった。</p> <p>しかし、現在の状況を見ると、精華町の人口増加も止まりつつあり、4万人までは難しい。一部では宅地開発も進んでいるところもあるが、このような状況の中でどのようにコンパクトにまちを作っていくべきかが課題である。</p> <p>安全・安心や住民サービスについては、アンケートにも意見があったが、バスなどの交通関係や商店に関するものがあり、これらの課題に答えていかなければならない。</p> <p>全国では、この20年間に食料品店の数が半分程度まで減少している。都市部以外で顕著であり、商店街だけでなく街中の大型スーパーも撤退しており、不便に感じるのは当たり前である。</p> <p>このような状況の中で、これから色々なことがさらに変わってくる。子どもたちのために学校給食を導入したい訳であるが、施設をどうすれば良いのか、このまちの将来像も想定した上で考える必要がある。</p> <p>精華町では、役場や祝園駅周辺のほかに、もう1つ、けいはんなに大きなまちの中心があって、今後これがどういう形で展開するのかも想定しておく必要がある。</p> <p>私たちとしては、まちづくりの基本を議論しつつ、これからのまちづくりの中でどのように住民生活を維持していくか、そのあたりを踏まえた上で、どのような施設が必要かを議論していく必要がある。</p> <p>先ほど、現地見学にも行ったので、そこも踏まえて議論ができればと思う。</p>
井原委員	<p>今の話にあったように、今後、高齢化が大きな課題になる。やはり、食育センターをつくるのであれば高齢者にも食や食育が届くような仕組みが重要ではないかと思う。お金がある人は民間の宅配サービスを利用するなどできるが、そうではない独居老人の方が増えていく中では、食をサポートする必要があるのではないか。</p> <p>前回、子どもと老人との融合という話があったが、大人の知恵、おじいさん、おばあさんの知恵と食育を上手く融合することも必要だと思う。</p> <p>今日、見せていただいた防災食育センターの予定地に隣接する中学校では、非常に良い</p>

	<p>取り組みをされていたので、それをさらに活性化し、子どもたちがおじいさん、おばあさんのノウハウを自然と身につける、そういう内容を構想の中にも含めることが良いのではないかと感じた。</p>
宗田座長	<p>宅配よりも集まって食事をする場所ということか。</p>
井原委員	<p>そこが食堂のような場所にもなるし、宅配もそこから供給する。多様な機能を持たせるイメージである。</p>
宗田座長	<p>今、高齢者に対する食のサービスという話があったが、一方で、全国で話題になっている子ども食堂というものもある。</p>
井原委員	<p>聞いているところでは、朝はパンと牛乳しか食べていない子どもが多い。もう少しお米を食べてカルシウムを取って、昔の日本の食事ができる環境を作っていく必要がある。幅広い年齢層が一緒になってそういう環境を作ることができれば良いのではないか。</p>
宗田座長	<p>学校給食は戦後に始まった制度で、当時は栄養が足りなかったところからスタートしている。今の時代の流れやニーズとしては、少子化とともに高齢化も進んでいる。子どもの食育に取り組みつつ、高齢者の栄養管理も必要な部分である。</p> <p>行政が作る学校給食施設がどこまで町民の課題に答えられるか。そこに子どもと高齢者が前面に出てくるというのは良いと思う。</p>
井原委員	<p>もう1点、けいはんなに進出した中小企業の悩みとして、昼食の弁当の宅配業者が中々見つからないということがある。1つの企業で10食程度しかないと商売が成り立たず、受けてもらえない。進出企業が集まって、ある程度の必要食数を確保した上で、業者に発注することができればと考えている。それがこの食育センターでできたりはしないだろうか。行政が行うことは難しいが、運営を民間に任せるような方法であれば実施できる可能性もあるのではないか。</p> <p>現在、1,500食の予定ということであるが、中小企業の昼食ニーズを含めて検討すれば、量も増えるしコスト削減にも繋がると思う。</p>
宗田座長	<p>企業の昼食についての課題解決には、地域の主婦やパートの方を募り、地域コミュニティの活動として取り組んでもらうコミュニティビジネスのような手法や夜営業のお店が昼の時間に空けて別の事業者に分のところのキッチンを貸すというシェアキッチンなども手法として考えられる。</p>
福味委員	<p>私は北部地域に住んでおり、木津川の氾濫時には浸水害が想定される地域である。高齢化が問題となってきており、日常の買い物をする店もない。今は車があるから生活ができるが、車がないと祝園地域まで来るのにも20分ぐらいかかる。</p> <p>食の配送に関する話が出ていたが、現在でも配食サービスを利用しているお年寄り結構いる。お金を払って民間のサービスを利用する人もいれば、精華町が精華町社会福祉協</p>

	<p>議会に委託して実施している配食サービス事業を利用する人もいる。ただ、配食サービスを受けて、自宅で食べているだけでは後につながっていかない。同じ食事であったとしても、皆で集まって一緒に食べることができるような施設があれば良い。独居の老人同士でもそうやってつながっていくことができる。</p> <p>前回の意見でもあったが、様々な人が集まって交流する場があれば良いと思う。特に、精華中学校ではコミュニティ協議会があり、そこでシニアスクールが活動しており、そこと連携して取り組むことができるのではないかと思う。</p> <p>例えば、昼間は学校給食に、夜は地域の食事に、更に夜は町内企業の従業員のために使うなど。場所としては駅に近くて良いと思う。</p>
多々納副座長	<p>行政と民間のやるべき内容は分けるべきだと思う。場所を共有して一緒にできれば良いが、逆に非効率になる可能性もある。また、給食と配食サービスを兼用するとなると、給食はやはり子どもの成長などを考えたメニューであるので、大人が喜べる食べ物が提供できるのかという問題がある。飲酒できるような施設という点は、学校という場所を考えると難しい。</p> <p>もう1つ、学校教育にどう貢献できるのかという視点があると良い。地域の方と一緒に何かできるのではないか。今日見た精華中学校には、コミュニティ協議会で利用できる調理室があるので、必ずしも防災食育センターに共同調理場のような設備がなくても良い。一方で、コミュニティ協議会の利用スペースには、多くの方が集まり交流できる場所がなかった。それならば、多目的スペースのような場所があっても良いと思う。</p>
宗田座長	食育センターは直営でやるのかPFIでやるのか。
事務局	建設については通常の入札を行い、町が建設する予定である。学校給食の運営については、民間委託を視野に入れている。
宗田座長	委託を受けた民間事業者が、学校給食をやりつつ、プラスアルファの事業をすることについては、条例等で実施可能な事業の範囲を制限するなどすれば可能ではないかと思うがどうか。学校給食は100%実施しながら、地域住民に配食する地域ニーズもあると思うので、活用できるのではないか。
井原委員	給食センターを作ると中学校の給食は全部まかなえるのか。今後、生徒数は減っていくと思うが、そのあたりはどう考えているのか。
事務局	<p>1,500食あれば、中学校給食はまかなえる。</p> <p>生徒数の減少については想定しており、将来的には一部を転用することについても、当然考えていかないといけない。一部を他事業に転用することやプラスアルファの事業については、業者との契約に盛り込むことにより可能であると思う。</p>
多々納副座長	すでに精華町の事業として精華町社会福祉協議会が実施している配食サービスがあり、民間事業者による配食サービスもある。一方で、これから町が補助金を使って建設する施

	<p>設があり、そこが配食サービスを実施するというのであれば、民間事業者との共存を考える必要がある。</p>
井原委員	<p>配食サービスは社会福祉協議会が実施しているとのことだが、そこには町からの支援も入っているのか。</p>
事務局	<p>配食サービス自体は、町が社会福祉協議会や民間事業者に委託する形で実施しており、町からは一定の委託料が支払われている。また、社会福祉協議会に対しては、運営に係る補助金を交付している。</p> <p>社会福祉協議会については、災害時のボランティアセンターの機能もあり、町とは協力して福祉事業等に取り組んでいる。</p>
高鍋委員	<p>防災食育センターは、有事の際の施設であるから、平常時でも訪れやすくあるべき。災害時は交通機関が乱れ、さらに訪れるのが難しくなると思う。</p> <p>防災に関連しての炊き出し機能については、学校が避難所になることを考えると、各学校の調理室の活用も可能であると思う。かしのき苑やむくのきセンターの調理室についても活用可能ではないか。箱物を作る際には、その後のメンテナンスなどの問題も出てくると思うので、メリット・デメリットを良く考えた上で進めていくべきだと思う。</p> <p>中学校給食について、少し私見を述べさせていただきたい。私は、お弁当を作ることも大切であると考えている。中学、高校の時期に子どものお弁当を作ることで子どもの状況が分かる。残していれば体調面や精神面で何かあったのかと気づききっかけにもなる。今の親は子どもを見る機会が全体的に減っている気がする。子や親に対する支援が増えてきているのは良いことだが、それが親としての成長を妨げている部分もあるのではないか。</p> <p>また、学校の先生の働き方改革を進めようとする中で、給食の時間として先生が指導する時間が増えることは、その流れからも逆行しているのではないか。給食を実施するのであれば、アレルギー対応も出てくるだろうし、負担は必ず増える。</p> <p>防災食育センターを作り、中学校給食を実施するのであれば、アレルギー対策の拠点になるようなものを作れば良いと思う。有事のときは、救援物資をすぐに口に入れられない人もたくさんいるので、その人たちの対応をこの防災食育センターでできれば良い。</p> <p>もちろん、平常時からアレルギー対策の研究をして、中学校給食だけではなく、小学校や保育所も含んだ拠点としての機能が必要だと思う。</p> <p>平時も災害時も精華町では食のことは心配ないとなる。そうすれば、若いお母さん達もここに住みたいとなる可能性もある。</p>
宗田座長	<p>立派な親を育てることは大切だが、行政の役割の一つとして、弱い人を助けることも重要である。親が共働きで十分なお弁当が作れない、家庭の状況が厳しくバランスのとれた栄養のある食事が十分に採れないなど、少なくとも昼食については行政が責任を持って栄養のある給食を提供するということが重要であるとの判断により、今回の中学校給食導入を決定したのだと思う。</p>
山本委員	<p>防災からは少し外れるが、日本全体の中では人口減少や高齢化が進んでいるが、この</p>

	<p>20年で精華町はこれまでにかなり変化してきている。近鉄の急行停車や登美が丘まで地下鉄が通るなど、鉄道インフラも進んでいる。学研都市への企業立地についても、一時は停滞し、大手企業の撤退などもあったが、規制緩和などもあり、今ではほとんどの土地が埋まっている。</p> <p>学研都市の中でも精華町が一番ダイナミックに変化し得る可能性があり、そのためのインフラや条件を備えていると思う。</p> <p>これまでの経過と事実を整理した中で、あるべき姿を描き、そこから遡ってそのために何をすべきかというプロアクティブ（先見的、積極的）なアクションが残念ながら足りない。意思を入れた投資計画とまちづくり計画を10年単位、15年単位でやれば、精華町の人口はまだまだ伸びるし、まちとして発展すると思う。</p> <p>アンケートの結果を見ると、職住近接ではなくベットタウン化しており、町の中での職住近接をさらに進める必要があると思う。しかし、光台は建蔽率・容積率が40%、80%と厳しく、精華台では少し緩和されていて50%、80%であるが、土地を贅沢に使う計画となっており、若い人達がきて、マンションに住んで、子育てをしてということが難しい。</p> <p>また、けんはんな新線が祝園まで延びれば自然と駅前が開発されるはず。基本方針案に掲げられている「未来を見据える」ということを考えているのなら、そうしたことを考えた上で、自分たちの意志を入れた計画的なまちづくりに取り組む必要があると思う。</p>
宗田座長	<p>人口減少を甘く見すぎている気がする。昨今の不動産市場からすると、東京近郊でも駅前のマンションがここ数年売れ残っているくらいの状況である。</p>
山本委員	<p>人口分析についてはゆだねるが、学研などの企業に対しては、精華町に住むことでのインセンティブを付けるなどして、職住近接を進めると良い。</p> <p>活性化された、サステナブル（持続可能な）コミュニティとして精華町は、住んでいる人たちが、皆が満足して誇りを持てるような、精華町に住んでいたら全てが自己完結できるようなまちを目指すべきである。そのためには、各地域の現状はどうで、目指すべき姿はどこかということを考えてみてはどうか。</p> <p>開発地域であっても、人口の流入がないとすれば、15年後には75歳以上が半数になる。そうなれば、運転免許証を返上した車を運転しない人々が増え、もっとバスを増やして欲しい、そんな時代になると思う。</p>
宗田座長	<p>光台のようなニュータウンは全国に多々あり、新陳代謝が上手くいかないのは大きな問題である。住宅地だと流出したところに、新しい人が入ってこないといけませんが、そのために規制を緩和し、敷地を分けて少し狭いが安価な住宅を作るという方法をとったりするが、それは自滅の道を歩んでいる。京都の伏見区、南区でも空き家が埋まらず、次の住民が来ない。</p> <p>親が一生懸命建てた家でも、子どもが住まない。住宅は一代で消費してしまう時代であり、このままでは光台や精華台も同じことになる可能性がある。</p> <p>現在は一人暮らしが増えてきており、だからマンションや利便性の高い都心が良いとなってくる。けいはんなを計画している時は、こんな社会になるとは想定外であった。</p>

多々納副座長	精華町はまだ比較的新しいまちであるが、何年か経てば今の問題が出てくる。住宅地の更新を進めながら、なおかつ良い雰囲気のマチにするには何が必要か。
宗田座長	それは魅力である。例えば京都でやっているのは、京町屋という、古い木造の老朽住宅がある。ところが、それを良いと思っている人がいる。
多々納副座長	京町屋は景観もあるし、物語がある。 精華町に物語をどう作るのか。光台の物語はどうだとか、旧集落もあるが、それを全部まとめて物語として議論するというのはなかなか難しい。
宗田座長	どう魅力ある街にするかを考える必要がある。 学研地区はかなり綺麗な街並みで、なおかつ精華町には都心とは違う田園風景もある。 規制を緩和するのではなく、厳しい状態を維持することで景観や物語も維持し、そこに新しくきてもらう方法を考える必要がある。
山本委員	東光小学校や精華台小学校ではまだまだ多くの児童がいて、これは当初住んでいた世代から新たな世代に変わって代謝しているということが考えられる。20年前に家を買った人だけではなく、二世帯が住んでいるところも多いのではないかと。 その子ども達が15年後に同じように自分の子どもと二世帯で住みたいと思えるまちにしたい。そういうまちづくりの構想が必要だと思う。 もう1つ、アンケートに交通網に関する意見が多かった。高齢者、あるいは人口の少ない地域からのアクセスを祝園駅に集めることができればかなり解決すると思う。 例えば、高齢者のバス利用について、奈良では一律100円、大阪でも1回当たり50円で乗ることができる。大きな市でもこういう取り組みをやっている。精華町でももっと資金を捻出して、高齢者に優しいまちづくりを目指して工夫すれば、祝園駅に人が集まり、そうなれば出店する店も増え、駅前が活性化する。
井原委員	人口を維持するか増やさない限り、その町は衰退する。一番のポイントは便利かどうか。何かしらの便利さを持ち込まないとそれは難しいかなと思う。 光台はまだ高齢化していないというが、木津川台ではすでに空き家が増えてきている。活性化していくにはインフラを便利にし、若い人がどんどん入ってきて、職場や住居も町内にある必要がある。
多々納副座長	実態として、職住近接の住み方をしているのかということと、それに何かファンクション（働きかけ）があるのかどうか。 職住近接を目指すのであれば、子育て世代の人がそこに住みたいかどうかという議論だと思う。
宗田座長	精華町のまちづくりとしては、祝園駅周辺と学研都市周辺が重要である。祝園のマンションなどに住んでいる人たちが、ここで子育てがしたとか、生活が便利だというまちを作り、住み続けてもらうようにする。また、学研都市は企業集積が進んでいるが、そこに勤

	める人たちに、周辺に住んでもらわなければならない。
山本委員	<p>祝園は今でも JR と近鉄の結節点である。JR 学研都市線は新大阪まで行、宝塚まで行っている。登美ヶ丘まで行けば、近鉄で神戸、三宮まで行けるし、奈良にもいける。</p> <p>新線が延びれば、けいはんなが京都、奈良、大阪の交通の結節点となり、祝園まで行けば JR が加わって、大阪の地下鉄にも行ける。そうなれば企業も人も集まってくる。そんな構想が描ければ良いと思う。</p>
宗田座長	<p>アメリカで衰退した郊外を再生する際のニューアーバニズムという考え方がある。開発に失敗したまちだが、昔の街並みを取り戻して、気の利いた田園風景にすることで人を呼び込む。西海岸ということもあり、ベンチャー企業などが入ってきてまちが活性化するというものである。</p> <p>はんなプラザを中心に光台や精華台には美しい街並みがある。その周辺地域についても街並みを整備し、さらに人を呼び込む。しかし、そこには規制がないから、景観ガイドラインを作ったり、公共事業で街路を整備したり、商業施設の誘導や規制などもセットで、住民と一緒にルール作りをしながらまちづくりを行うことで、祝園周辺も含めて魅力のあるまちを作っていく。</p>
多々納副座長	<p>そういうことであれば地区計画を活用すべきである。</p> <p>都市計画マスタープランには、各地区の議論があって、全体が目指すべき姿があり、まちづくりを進めていくが、今回の構想でとりまとめる 2 施設、食育センターと受援施設の検討を考えると、今の話はスケールが大きすぎるのではないか。</p>
宗田座長	<p>その地域の方向性をどうするかというレベルまでいかないとしても、地域の方針になるようなことも含めて議論した上で、地区計画なども想定しつつ、こういう施設をつくるという議論にはしたいと思っている。</p>
事務局	<p>基本構想については、今年度中にまとめていく予定である。ただし、まずは中学校給食の導入を可能な限り早期に実施したいと考えているため、防災食育センターの詳細については、今年度の基本構想をもとに、次年度の基本計画と実施計画で決めていく。一方で、打越台については、事業化がもう少し先であり、次年度で詳細な内容まで全て完成することは難しいと考えているが、この年度末までに一定の方向性を議論していただき、基本的な方針と付加機能の想定までご意見をいただければと考えている。</p> <p>本日は、前半部分において防災食育センターに関連したご議論をいただき、前回第 1 回の議論と併せて、形が見えてきたように思う。また、先ほどは、町全体の話をさせていただいて、町の将来像について皆さんの中で少し見えてきた部分があると思うので、その中でも北部をどのようにしていくのかを議論していただいた上で、歴史的遺産や学術施設のような北部にある資源と関連づけるなどして、今回、整備を検討している 2 拠点について、点ではなく面で捉えて、どのようにしていくのが良いのかを議論していただき、施設整備の方向性やそのために必要な機能についてご意見をいただきたいと考えている。</p>

■まとめ
宗田座長

現在、精華町のまちづくりは大きな転換点にあり、今後の精華町のまちづくりを考えると、町の玄関口である祝園駅周辺に魅力的なまちを作らなければ、今以上の発展は望めない。子育て世代や若い人たちが住みたいとなるようなまちの拠点としての祝園駅周辺があり、防災食育センターについてはその点も含めた機能が必要となる。

また、北部地域では、区画整理事業が一定完了を予定しており、民間による開発も今後予定されているが、施設整備については、周辺の豊かな自然を生かすことが大切であり、これも精華町の魅力の一つである。

いずれにしても、このまちに住みたいと思われるような魅力的なまちを作るために、先ほど話をしたニューアーバニズムのような考え方も踏まえた上で、展望や計画をしっかりと持って取り組む必要がある。